# 「百儂人丼」を商品化

## 豊橋百儂人

# 移動販売車を導入

## きょうまで試食会　東三河の農産物ＰＲ

技術と情報発信、販売力を併せ持った生産者らでつくる「豊橋百儂人（ひゃくのうじん）」が、豊橋など東三河の農産物をＰＲする一環として、移動販売車を導入するとともに地元産農産物を使った「百儂人丼」を商品化した。25日には豊橋市内でお披露目と試食会を開いた。26日も実施する。

豊橋百儂人は、生産者ら16人で東三河地域で活動。地元産農産物や加工品、全国屈指の地域の農業をＰＲする活動を実施しており、新たに移動販売車とオリジナル商品を使った取り組みに乗り出した。豊橋市地域農産物等ブランド化ビジネス起業支援事業に採択されている。

電気自動車の軽トラックをベースにした移動販売車を使った取り組みは当面、1年間実施する。地域のイベントに出向き、百儂人丼や農産物などを販売する。

お披露目された移動販売車＝豊橋サイエンスコアで

百儂人丼は、メンバーが作る卵や豚肉、米、はちみつベースのタレなど地元の食材を材料に居酒屋「たかむら家」（豊橋市）と共同で開発。価格は800円。すでにイベント会場で販売し、好評だったという。

試食会は、豊橋市西幸町の豊橋サイエンスコアで開き、用意したハーフサイズ50食を訪れた人に振る舞った。26日も、午前11時半頃から同所で開催する。

ＰＲ活動は、メンバーがイベントなどに出展して実施しているが、移動販売車の導入で幅が広がる。鈴木義弘代表は「今後、移動販売車でおむすびの『百儂人むすび』も販売していきたい。首都圏でのイベントにも足を延ばせたら」と意欲をみせる。

30日には、穂の国豊橋ハーフマラソン会場（豊橋公園）で移動販売車による販売を行う。

（中村晋也）